

育成モノづくり人材

Vol. 25

北海道札幌工業高校

北海道札幌工業高校は機械科、電気科、建築科、土木科の4学科で構成する。北海道の中

心地である札幌市の工業高校として、池田尚志校長は「北海道の工業教育をリードしていきたい」と意気込む。10月には開校100周年を迎え、新たな一歩を



池田校長

は土木科の生徒3人が取得するなど「生徒たちは自主的に真剣に取り組んでいる」と目を細める。

【DATA】▷校長=池田尚志氏▷所在地=札幌市北区▷学科構成=機械科、電気科、建築科、土木科▷総定員=960人▷主な設備=CAD/CAM、マシニングセンター、NC旋盤、直流電流発電機、交流電動発電機、基礎計測用電気計器、トータルステーション、3次元プロッター、トランシットなど▷主な進路=北海道電力、北海道ガス、新日鉄住金室蘭製鉄所、トヨタ自動車北海道、デンソー北海道、旭イノベックス、札幌市など

100周年機に「SPH」狙う

踏み出す年でもある。「生命線」とも言える職業観の育成に向け、2年生を対象に3日間、資格取得に積極的だ。15年度は技能検定(機械加工)3級を機械科の生徒7人が取得したほか、測量士補で

15年度のインターンシップ(就業体験)は力した。道内の建設や電気業界団体とも連携する姿に手応えも感じている。12月には新しい体育館が完成予定で、池田校長は「100周年に向けて活気のある雰囲気

気になってきた」とも入賞者が出るなど今回も活躍が期待される。最近では、工業所有権情報・研修館の16年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用大会」で建築科の力開発事業(導入・定着)に採択された。文部科学省が実施する専門的職業人の育成を



土木科ではトータルステーションを5台導入し、さらなる教育の充実を図る

図る「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」についても池田校長は「指定校をあらためて目指す」と、101年目の新たな同校の姿も描き始めている。

工業高校の3年間は「通常の勉強以外にもモノづくり関係の資格など自分にあっても、得意なものを見つけていくことができる」と池田校長は強調する。

池田校長は「技術の身に付け、仕事に自信を持つ」。そんな将来を指す中学生にとって成長につながる格好の場となるはずだ。(札幌・山岸渉)(金曜日に掲載)